

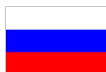
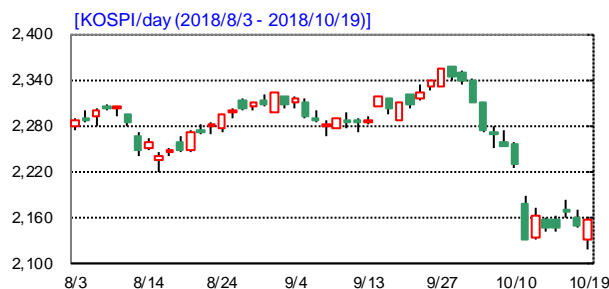


【韓国】 総合指数は週間で0.3%安と3週続落、2150ポイントを挟んで一進一退

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%安と3週続落。目新しい売買の材料に乏しい中、相場は2150ポイントを挟んだ一進一退の展開が続いた。週明け15日に反落してスタートすると、16日は横ばい。米中貿易摩擦による世界経済の減速や新興国からの資金流出に対する懸念が重荷となり、主力のハイテク株が売られた。17日は前日の米国市場の大幅反発を好感して1%超の上昇。一方、18日は中国株の大幅安が波及して反落した。19日は、前日の米株安を嫌気して朝方に急落し、取引時間中としては2017年3月以来、約1年7カ月ぶりの安値をつけたものの、中国株式市場が上昇に転じたことを受けて反発して終えている。今週は引き続き米国市場の動向などをにらんだ展開か。25日には韓国の7-9月期のGDP速報値が発表される。

▼指数チャート

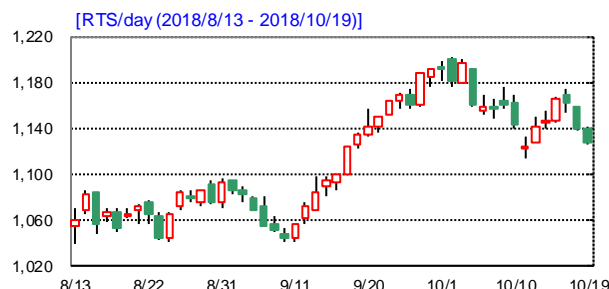


【ロシア】 RTS 指数は1.3%安と3週続落、今週は中東情勢をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.3%安と3週続落。中東情勢の悪化懸念後退が好感されて買いが先行するも、テロ事件報道や原油安などが嫌気されて反落した。欧州株が軒並み反発して始まったことで、RTS指数も週明け15日は上昇スタート。翌16日には中東情勢の悪化懸念の後退が好感され、1.7%上昇。終値で約2週間ぶりの高値をつけた。しかし買いは続かず、終盤は世界的に株が売られる中で資金が流出。クリミア半島でのテロ事件報道や原油価格の下落なども嫌気されて売りは止まらず、結局それまでの上げ幅を全て吐き出して終了した。個別では、資源のノヴァテク(6.8%安)、ガスプロム(3.4%安)、金融のズベルバンク(4.2%安)などの下落が指数の重しとなった。今週は原油相場の動向や中東情勢をにらんだ展開か。

▼指数チャート



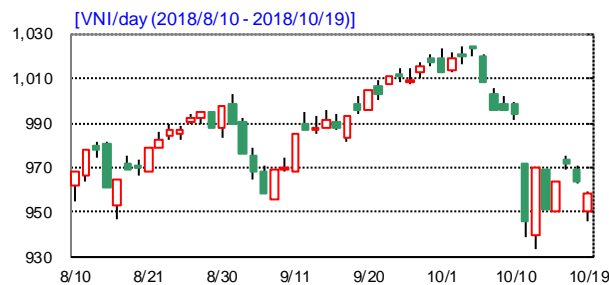
【ベトナム】 ベトナム指数は1.2%安と3週続落、今週は押し目買いが相場を支える

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.2%安と3週続落。週初に下落して始まった後、16-17日に買い戻されるも、中国の経済指標の悪化などが嫌気され、週後半に再度売られた。週明け15日は前営業日比1.9%安と大幅に下落。米中貿易摩擦が懸念されたほか、決算発表シーズンを控えた警戒感や英国のEU離脱をめぐる不透明感でリスク回避姿勢が強まった。その後、行方不明のサウジアラビア人記者について、サウジ当局が記者の死亡を認める準備を進めているとの報道を受けてサウジと欧米諸国との緊張が和らぎ、買い戻される場面も見られた。ただ、週後半は中国の7-9月期GDPが予想を下回ったことで貿易摩擦をめぐる懸念が強まり、資金流出への警戒感が広がった。今週は貿易摩擦懸念がくすぶる一方、押し目買いが相場を支える

▼指数チャート

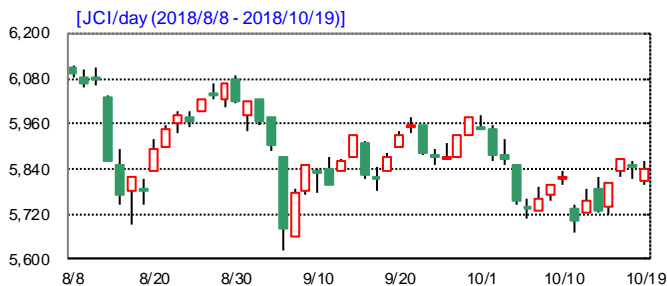


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.4%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 1.4%高と続伸。週半ばまでの上昇が貢献した。週初の 15 日は 9 月の貿易収支が 2 カ月ぶりに黒字を回復したものの材料視されず、指数は反落してスタート。16 日はサウジアラビア人記者の殺害を巡る同国と西側諸国の緊張緩和に加え、イタリアの財政に対する懸念がやや後退したことを受けて前日比 1.3%高と終値で 5800 ポイントを回復した。勢いに乗った 17 日は通信株と素材関連株が買われ、さらに 1.2%上昇したが、その後は利益確定売りで週末まで続落して引けた。今週は 23 日に中央銀行が定例会合を開催する予定で、政策金利は 5.75%に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート

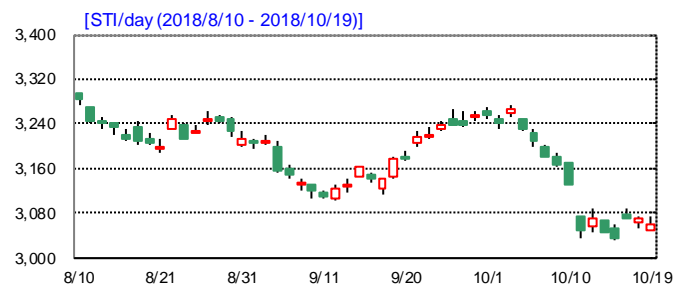


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%安、9 月の非石油地場輸出は医薬品部門が好調

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%安と 3 週続落。週半ばの反発を除き、さえない値動きだった。週前半は前週末に上昇した反動で続落。一方、17 日は 9 月の非石油地場輸出が医薬品部門の好調を受け、前年同月比 8.3%増と市場予想から上振れた効果で、指数は終値ベースで前日比 1.2%高と 3 日ぶりに反発した。ただ、18 日は政府が集合住宅の新築に関する規制を強化したことで不動産株が売られ小幅に反落すると、19 日も続落して取引を終えた。今週は 23 日に 9 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定。前月比の鉱工業生産が 3 カ月ぶりにプラスに転じれば株式相場を下支えする材料になりそうだ。

▼指数チャート

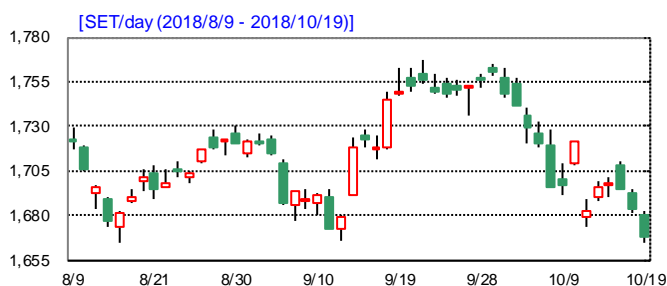


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.7%安、今週は 9 月の貿易統計（通関ベース）に対する反応が焦点

SET 指数は 4 日間の取引で 1.7%安と 3 週続落。週半ばからじりじりと下値を広げた。連休明けの 16 日は小幅に続伸したものの、17 日はタイ空港公社などが売られ反落。18 日は 9 月の FOMC 議事要旨のタカ派的な内容が嫌気されて前日の NY ダウが反落した流れで売られた。19 日は中国の 7-9 月期の GDP 成長率が前年同期比 6.5%と 09 年 1-3 月期以来の低成長だったあおりを受け、3 日続落して取引を終えた。今週は 22 日発表の 9 月の貿易統計（通関ベース）に対する市場の反応が注目される。前週末の NY ダウが 3 日ぶりに反発したことは好材料。23 日はチュラロンコーン大王記念日のため休場となる。

▼指数チャート

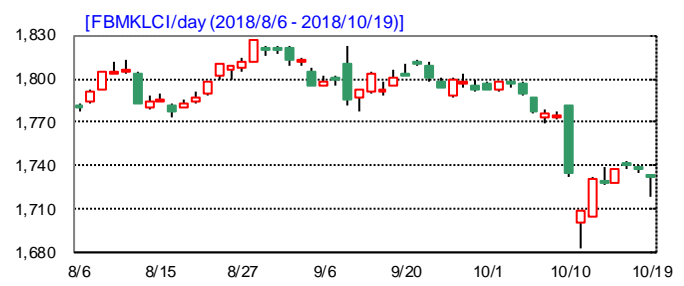


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、今週は 24 日に 9 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%高と小幅ながら 4 週ぶりに反発。週半ばまでは堅調だったが、後半に続落し、上げ幅を縮めた。15 日は前週末に 8 営業日ぶりに反発した反動に加え、中国株が下落した影響で指数はわずかに反落。16 日は引け際に買いが集中し反発すると、17 日は前日の NY ダウが大幅上昇した効果で続伸した。ただ、18 日は政府が財政赤字の拡大と経済成長減速の見通しを明らかにしたことが嫌気され反落。19 日も前日の欧米市場で株価が下落した流れを引き継ぎ続落した。今週は 24 日に 9 月の CPI が発表される予定。19 年度政府予算案の発表を翌週に控え、様子見ムードが広がるか。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。